

インタビュー●

分権改革の現在地と自治

今村都南雄・中央大学名誉教授／（公財）地方自治総合研究所顧問

聞き手●坪井ゆづる・地方自治総合研究所客員研究員／元朝日新聞論説委員

二〇〇〇年以降、一三度にわたる
地方分権一括法による分権改革は何をもたらしたのか。
自治・分権に逆行する数々の政策を概観しつつ、
これからの自治を担う「新しい公共」を再考する。

坪井…この特集は「分権改革の来し方を
振り返りつつ、これからの分権、自治の
あり方を再び考える」です。前提には沖
縄の辺野古基地建設での代執行や、総務
省の研究会で地方分権が国の施策の円滑
効果的な実施の支障となっていると指摘
されるなど、自治・分権に強い逆風が吹
いているという現状認識があります。前
半で分権や自治体現場の現状へのご意見
を、後半では先生がいち早く掲げられた
「新しい公共」の考え方と現在地などにっ

いて、忌憚のないお話をうかがいたいと
思います。

では、まずは読者に先生のことをわか
りやすく知っていただくためにも、先生
が自治・分権に取り組まれたエピソード
があれば教えてください。

今村…エピソードと言われても、あまり
ないんですね。中央大学の学部時代、法
律学科だったのですが、自治法の授業が
ありませんでしたし、別に地方自治に骨
を埋めるというような気持ちは全然あり

ませんでした。

秋田県で八郎潟を埋め立てて、これま
でにない新しい村（大潟村）ができるとこ
とに興味を持ち、現地に何度も足を運ん
だり、三井三池炭鉱があった福岡県大牟
田市でも調査をしたりしたけれど、具
体的にエピソードを語ってくれと言っても、
特にこれだ、というものはないんです。

坪井…自治体職員の方々も何かきつかけ
があつて、この道に入った人ばかりでは
なく、なんとなくという人も多いと思う
のですが、先生の自治・分権との関りも
なんとなくという感じでしょうか。

今村…そうですね。自治・分権との関り
となると、なんとなく始まつちやつたみ
たいな感じになりますね。

昔を振り返って思いだすのは一九七二
年、東京都の本庁舎建設審議会専門員に
任ぜられたときの思い出です。美濃部
（亮吉）都政のときで、ある朝、美濃部
知事にあいさつに行つたときに知事から、
「そこ、開いてますよ」と言われたんです。

社会の窓を指さされて、ね（苦笑）。

●分権改革の評価

坪井…ざくばらんなお話から始めてい
ただき、ありがとうございます。では、こ
こからは分権改革の評価について、うか
がいます。ただ、自治体職員には「分権
改革」を具体的にイメージできない世代

が増えているので、分権改革のおかげで、
こんないいことがあつたぞ、といったお
話からお聞かせください。

今村…僕は分権よりも自治の方を評価し
ます。自分たちの地域のこととは自分たち
が責任を持つて決めることができるよう
にするという「自治」を、ね。「分権」と
いうのはどうしたつて権力を分けてくだ
さいみたいな言葉ですから。

坪井…むろん、自治が主役だと思います。
自治をきっちり機能させる、自治をもつ
と拡大して向上させる。そのためには、現
場に権限や財源を渡すべきだという前提
で、分権改革という言葉を使わせていた
だきたいと思います。一般的には改革の
成果として、二〇〇〇年の機関委任事務
の廃止が挙げられます。先生もそういう
評価ですか。

今村…それは成果だとは思っています。
ただその語り方があまりにも通り一遍で、
何か、「なるほどな」というものに裏付け
られていない感じがしています。私の実

感としては、分権改革それ自体の中には、
なんでこんな風になつてしまつているん
だろうということの方が圧倒的に多いん
ですね。

坪井…我々はよく、機関委任事務が廃止
されたことによつて、国と自治体の関係
は「上下・主従」から「対等・協力」に
なつたという言い方をします。

今村…僕はそんなもんじゃないよなつて
思います。

坪井…一九九〇年代の第一次分権改革で
機関委任事務の廃止に尽力された西尾勝
先生が、その後よく口にされたのが「機
関委任事務を廃止したことで、自治体で
いろんなことが自分たちの判断でできる
よになつたのに、自分たちで判断して
いますか、相変わらず国の指示待つてい
ませんか」ということです。先生もそう
お考えですか。

今村…それはそうですね。
坪井…つまり、自治体の側でできること
が増えたはずなのに、旧態依然というと



いまむら・つなお●一九四一年山梨県生まれ。国際基督
教大学大学院行政学研究科修士課程を修了。中央大学法
学部教授、山梨学院大学法学部教授などを務めた。日本
行政学会理事長、地方制度調査会委員、地方自治総合研
究所所長などを歴任。主な著書に『行政学の基礎理論』
（三嶺書房、一九九七年）、『官庁セクシヨナリズム』（東
京大学出版会、二〇〇六年）、『わたしの行政学研究』（公
人社、二〇〇九年）など多数。